

日本選挙学会 2007年度第3回理事会議事録

日時：2007年12月8日（土）14：10～17：06

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス・3号館2階・第3会議室

出席者：田中・河崎・池谷・川人・湯浅・小林・桑原・杉本・小西・荒木・石田・玉井・
岩淵・岩崎・山田・谷・池田・河野・安野・河村（以上、理事）、増山企画委員長、
今井・高安・名取（以上、事務局）

議題：

1. 各委員会の活動状況について

（1）企画委員会

増山企画委員長から、2008年度大会の企画案と今後のスケジュールについて説明があった。つぎに、各分科会の司会者・討論者・報告者およびセッション概要について説明された。また、ポスターセッションについては10件程度の応募があったが、そのうちの何件の報告を分科会にまわしたため、追加応募をかけることも報告された。

（2）年報編集委員会

山田23号委員長から、23号の初稿が木鐸社に集まっている状況であることが報告された。また、紀要10号の投稿を11月10日に締め切り、投稿件数が論文1点であったことと、12月21日の年報編集委員会で具体的な紀要の構成について検討することが報告された。最後に、紀要9号が発行され、会員に発送されたことも報告された。

つぎに河村24号委員長から、11月24日に会議で、年報のページ数に上限があることから、企画の上限や書評2ページ体制について検討したことが説明された。1号目については、企画委員会の案を見て検討することと、もう1号の企画については、法律関係者を呼び込むような企画を立てることが議論されたことも報告された。

（3）文献委員会

小西文献委員長から、業績申告のフォーマットについて報告および提案があった。まず、コードについては、あまり細分化する必要がないことから今年度は2個のままにすることと、「著者・編著者名」のところに（共編著者名）、論文名の後ろに（ページ数）を記入できるようにすることが報告された。つぎに、キーワードの記入を新たな項目として追加することについて提案があった。審議の結果、小西委員会からキーワード（3つ）、コード（2つ）の両方を記入してもらう形で、業績調査を実施することが承認された。

（4）選挙管理委員会

杉本選挙管理委員会委員長から、理事選挙の結果について報告があった。投票結果は、有権者数291（9月理事会）、年長者151、年少者140、転居先不明のため返送が1通、返送が169通、無効が3通、投票率57%であった。なお、有権者名簿の氏名に記載ミスが一件あり、その会員への投票もあったが、正しい名前が書かれていたので、その票として容認したこと、また返信用封筒の中に複数の返信用封筒が封入されているケースがあったが、これも容認したことが報告された。

最後に、義務ではないが、選挙に関する収支報告書を提出したことも報告された。

2. 理事選挙の結果と今後の日程について

河崎事務局長から、本日（12月8日）、公選理事により推薦理事を選出し、その後、理事長・各種委員長を決定すると説明があった。

3. 2008年度総会・研究会の開催について（日本大学）

杉本大会委員長から、大会会場に関する説明がなされた。また開催校ホームページについて、試作版を作成中であることが岩崎理事から報告があった。なお宿泊先の斡旋はしないことも合わせて報告された。

つぎに、河崎事務局長から、大会報告論文をウェブサイトにアップロードすることについての提案がなされた。審議の結果、2008年度大会については、報告要旨はアップロードし、論文については再検討する。2009年度大会については継続審議とすることになった。

4. 2009年度総会・研究会の開催について（同志社大学）

田中理事長から、大会開催委員長を西澤由隆会員として、同志社大学で開催することが、あらためて報告された。

5. 電子ジャーナル化の進捗状況について

河崎事務局長から、電子ジャーナル化に関する郵送調査の結果が報告された。200名強の執筆者が対象となり、4分の3が会員。50名以上が非会員であった。回答は80名程度からあり、そのうち非同意は2名、10数名分が宛先不明として返送された。これにより、非同意者の論文を除き、電子ジャーナル化できることになり、年明けからJSTと具体的な作業について協議を進めていくことが報告された。

電子ジャーナルは、選挙研究22号まではJSTで、23号からJ-STAGEで運用されるが、J-STAGEにおいては学会側で運用しなければならないことも、あわせて報告された。

この報告に対して、選挙研究紀要の電子ジャーナル化、運用体制以降の対応、依頼論文に関する事前許諾、などのあり方について意見が出された。

6. 査読編集委員会検討委員会の答申について

河崎事務局長から、査読編集委員会検討委員会の答申についての説明がなされた。答申では、編集委員会と査読委員会の体制について、新年報発刊体制への移行スケジュール、および査読・編集の手続きの流れについて、提案がなされた。

審議の結果、査読編集委員会検討委員会の答申は、全体として承認された。ただし、査読委員会と編集委員会の役割については、多くの意見が出されたため、文言などを修正した上で再提案されることになった。また、査読委員会の内規についても多くの意見が出されたため、継続審議とすることになった。なお、査読委員を重任しない点も確認された。

7. 韓国選挙学会との交流について

田中理事長から、11月23日に開催された韓国選挙学会へ小林理事が派遣されたことが報告された。

8. 学会経費の再検討について

河崎事務局長から、2008年度大会から司会者・報告者・討論者へのお弁当配布中止が提案され、承認された。また大会運営予算全般について今後、検討を進めると説明された。

9. その他

新入会員2名、退会1名が承認された。